

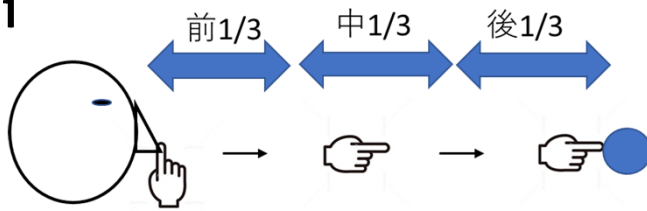
3Dモーションキャプチャーによる軽微な小脳性運動失調の解析

研究分担者: 田中 章景(横浜市立大学)

【目的】

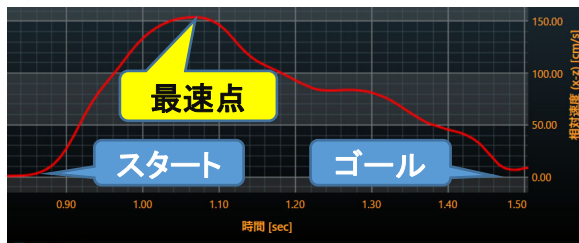
脊髄小脳変性症(SCD)において, SARAなどの評価では捉えにくい極軽微な上肢小脳性運動失調を検出する

図1



・指鼻試験(FNT)において,

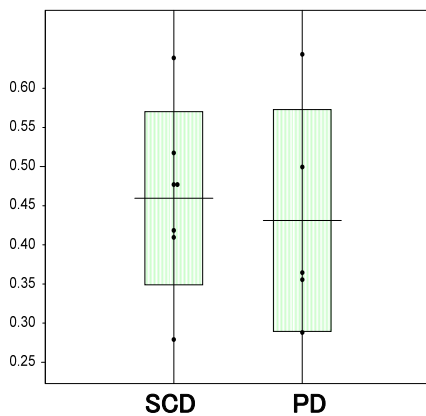
← $\frac{\text{各地点の平均速度}}{\text{全体平均速度}}$



← 最速点が全行程のどの位置か

【成果】

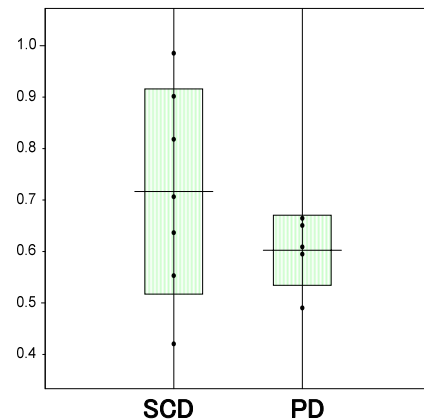
図2 最速点の位置



SCDではPDに比して最速点が後方に位置する傾向

図3

後方1/3地点での平均速度 / 全平均速度



SCDでは後半でもスピードが保たれる傾向

SCD 上肢SARA=0
PD 上肢に明らかなパーキンソニズムなし

FNTの速度の経過を捉えることで軽微な小脳性運動失調と他の軽微な運動障害を鑑別できる可能性

症例数が少なく有意差がついていないので、今後症例を増やして検討